

令和7年度
第2号
PTAはこだて

第 142 号

発行日 令和8年2月10日
 編集 函館市PTA連合会広報委員会
 発行者 函館市PTA連合会
 会長 秋山慎一郎
 印刷者 (有)三和印刷



函館市 PTA 連合会研究大会



子育て研修会 (グループの話し合い)



第2回会長研修会・交流会



第3ブロック連絡会



**単位PTA活動の必要性と
重要性について考える**

函館市PTA連合会

会長 秋山 慎一郎

みなさんこんにちは！突然ですが、みなさんは単位PTAの活動の中で悩みはありますか？ 役員のなり手不足、活動時の参加者数の減少など。一生懸命に活動をすればするほど、その悩みは尽きないと思います。しかし活動を通して子どもたちと一緒の時間を過ごすことで、子どもたちから活力をもらってPTA活動をされていることと思います。

悩みという、目前にそり立つ壁を乗り越えるために、まずはPTAの歴史に触れてみましょう。

PTAの発祥は十九世紀末のアメリカ、ワシントンDCで全米母親議会在開かれた事が始まりとなります。のちにこの活動は父親・教師・政治家も含めた多くの人が賛同したため全米保護者教師議会と名を変え、「全米PTA団体」となります。戦前の日本にもPTAの前身ともいえる「母の会」がありました。活動内容は、毎月の例会、親子連れ遠足、学校行事に参加（運動会、遠足）、学校課外指導部の援助など、現在のPTA活動ととても似ていますね。こういった活動が現在まで絶えることなく続いているのは、学校教育活動にPTAの存在が必要不可欠だからだと思います。

近年、PTA活動の在り方について、「本当に必要なのか」「負担が大きいのではないか」といった声が聞かれるようになってきました。そのような中で、あらためて単位PTA（以下単P）の必要性と重要性について考えることは、これからの学校と地域との地域連携の在り方を見つめ直す上で、極めて重要だと思います。単Pとは、学校単位で組織されるPTA団体で○

○小学校PTAなどといったもので、同じ学校に通う子どもたちの保護者と教職員が協力し合い、子どもたちの健やかな成長と安全な学習環境を支えるために組織された、最も身近な社会教育団体です。学校ごとの実情や地域性を理解した上で活動できる点は、単Pならではの大きな強みです。子どもたちの生活や学びに直結する課題に対し、学校と保護者が顔の見える関係の中で意見を交わし、対応できることは、他の組織には無い魅力があります。また、単Pは、学校・家庭・地域をつなぐ重要な役割を担っています。登下校の安全確保、地域行事への参加、防災や見守り活動など、学校だけでは対応が難しい課題に対して、保護者の力を合わせることで、子どもたちを地域全体で支える体制が築かれています。これは、子どもたちにとって安心感を生むだけでなく、大人同士のつながりを深め、地域社会の活力を維持することにもつながっています。

さらに、単Pは保護者自身の学びや成長の場でもあります。活動を通して、他の保護者や教職員と協力する経験は、様々な価値観に触れる機会となります。こうした経験は、子育てに対する視野を広げるだけでなく、子どもたちに「大人が協力し合う姿」を示すことにもなります。

単Pは、子どもたちのために大人が立場を越えて手を取り合うための大切な場です。その存在意義を再確認し、時代に合った形へと進化させて、子どもたちの未来を支える役割を果たしていくことが重要だと思います。

第二回 会長研修会・交流会開催!

十一月二十一日(金)午後六時三十分より亀田交流プラザ大会議室にて令和七年度第二回会長研修会・交流会を開催し、多くの各単Pの会長や副会長が参加しました。

前半の研修の部では、「持続可能なPTA活動を果たするために」と題し、秋山市P連会長より、保護者や教職員の負担を軽減しつつ、子ども達の健全な成長を支援するために、時代や社会の変化に対応して活動内容や運営方法を継続的に見直しに行く必要があるという視点でお話しがありました。

その中で、解決策として活動の必要性を検討し不必要なものの廃止と必要なものの効率化を図ることや、年間活動スケジュールの明確化により保護者自らが日程調整を行いなから活動に参加するなど、いくつかの例を挙げ見直しのための糸口について紹介がありました。また、道内各地で実施されている具体的な実践も数多く紹介されました。

まとめとして、令和のPTA活動は「量」ではなく「価値ある活動」が求められていることを踏まえ、各単Pの活動が価値ある活動となることを期待していると結びました。

その後休憩を挟み、後半の交流の部ではグループに分かれ、秋山会長が提起した内容や各単Pの現在の状況や話し合いたい話題について交流し、話し合いました。

どのグループも役員が抱えている悩みや相談事等を話し合い、時間が足りないと感じるほど、幅広い話題ながら充実した交流を行うことができたようです。

年々、このような研修会へ参加する役員の方々が増え、横のつながりを広め、強めていくようです。会長研修会や研究大会、子育て研修会など研修の場に多くの方々に参加していただき、学びを深めると共に交流を広げて欲しいと思います。多くの方々への参加をお待ちしています。



視察をかねて 全道大会に参加しました!

十月四日(出)〜五日(日)の日程で、第七十二回日本PTA北海道ブロック研究大会宗谷管内・稚内大会が北海道最北端の地、稚内市で開催されました。令和八年度は函館の会場を中心に道南大会を開催するため、役員等九名で参加してきました。せっかくなら運営も間近で偵察しよう!ということで、巴中の小林庸一(会長)・市P連副会長)に全面協力いただき、分科会で提言発表してきました。

一日目に行われた分科会では、「子ども達の安心安全な環境づくりを目指して」PTAと地域ができること」と題して、函館市P連の紹介や児童生徒数の減少に関する現状、地域を巻き込んだ見守り活動等の取り組みについて、など函館市内の様々な取り組みを全道から参加した皆さんに伝えることができました。

二日目は元THE BOOMのボーカル宮沢和史さんによる「戦後八十年を迎えて」沖繩と北海道から平和を願う」と題した講演を拝聴しました。会場の座席は、前から二列目に函館チームの指定席があったので、宮沢さんの代表曲「鳥唄」の裏にある想いと、その歌声を全身で感じる事ができました。

今大会では、道南大会の参考となる取り組みがたくさんあり、参加者それぞれが貴重な情報として持ち帰りました。次年度に開催を予定している「北海道ブロックPTA協議会研究大会」道南大会」にぜひ活かしたいと思えます。

市P連は「全道研究大会」 を絶賛準備中!

「第七十三回北海道ブロックPTA協議会研究大会 道南大会」が、令和八年十月十日(出)〜十一日(日)の日程で開催されます。

*大会スローガン

「親も子も笑顔になれる学びと子育てのみちしるべ」過去から受け継ぎ今を築き未来を語ろう」

*大会主題

「親と子どもの豊かな成長をめざして」

*主催

北海道ブロックPTA協議会
(北海道PTA連合会・札幌市PTA協議会)

*主管

函館市PTA連合会・渡島PTA連合会・
檜山PTA連合会

*参加者

道内PTA会員並びに教育関係者
*参加費
五千元(懇親交流会は別途四千五百円)

一日目は函館アリーナ・函館市民会館・七飯町文化センターを会場に、六つの分科会を行います。夕方には立食形式でコンパクトな懇親交流会をホテル函館ロイヤルシーサイドにて開催予定です。

二日目は講演会で、音楽グループひのき屋代表・はこだて国際民族芸術祭芸術監督・株式会社ヒトコチ代表取締役という肩書を持つソガ直人(そが なおと)氏を講師に迎える予定です。

この大会は、過去から未来へ大切に【受け継ぐべきもの】と、時代に合わせて柔軟に【変えていかなければならないもの】を見極める知恵を共有し、親がまず行動することで、子どもたちの未来を力強く切り拓く一歩となることを目指します。

函館市PTA連合会・渡島PTA連合会・檜山PTA連合会が組織する三ブロックが、合同で主管となり、準備しております。ぜひご参加ください!

第三ブロック連絡会を ご存じですか?



十月十八日(出)午後一時より北斗市農業振興センターにて第三ブロック連絡会が開かれ、二十五名が参加しました。この会は、北海道PTA連合会・渡島PTA連合会・函館市PTA連合会が情報交流する場として、年一回開催しています。

まず始めに道P連から出席いただいた城野事務局長より、道P連の今年度の活動について資料を活用しながら説明がありました。その後「各委員会の取り組み」について、秋山会長と中島子育て委員長より報告がありました。

また、今回は講演会を行わず、渡島P連・檜山P連・函館市P連が活動報告と、その中で感じる課題について発表し、その後グループ交流に移りました。四人で構成した小グループでは「地区P連の課題について」「今後必要となるPTA活動とは」「持続可能なPTA活動について」「その他自由」をテーマに、参加者それぞれが単Pでの取り組みや悩み、今後の目標など幅広く情報交流していました。



青函交流会

九月二十七日(土)から二日間、今年は函館で開催しました。青森からは八名が参加され、秋山会長、小林・向・小泉副会長、中島子育て委員長、佐藤厚生委員長、間研修委員長、干山・駒野顧問、そして事務局の中村・大橋・林の三名が函館メンバーとして参加しました。

昭和六十三年にスタートした青函交流会は隔年で互いの地で開催されており、今年度で第三十八回目を迎えました。

一日目の研修は、函館市中央図書館にて行いました。お互いの連合会の事業報告をした後、小グループに分かれ、自己紹介をし、自分たちの学校の活動状況について交流しました。

青森市PTA連合会ではねぶたの制作と巡行を市P連の事業として行っており、ねぶた祭が終わったらすぐに来年の準備に入っていることも話題になりました。このようにお互いに交流したからこそ気付くことが色々ありました。

次年度は本来青森開催の年ですが、道南大会が開催されますので、来年も函館に来て頂き、一緒に道南大会に参加できるよう計画しています。



子育て研修会

十月八日(水)午前九時四十分より、渡島合同庁舎の講堂にて、今年も渡島教育局と共催で行ないました。参加者は四十五名でした。

母親研修会としてスタートした子育て研修会ですが、今年で四十七回目の開催となりました。今回初めての試みとして、子育て委員による発表の時間を設けました。六つのテーマをチームで話し合い、親目線での発表を行いました。

- 六つのテーマ**
- 「性教育」「食育」「不登校」「親子関係」
 - 「ネット問題」「感情と向き合う」

情報提供として、渡島教育局の吉田社会教育主事から、子どもに関する現在の課題について、特別な支援を要する子どもへの理解や多様な性についてなど、道教委が行っている家庭教育支援の取組の紹介がありました。

その後、四々五人のグループでテーマについて、日頃育児をしていて思うところなどをざっくばらんに話し合っていました。

このグループの話し合いは毎年好評で、「初めて会う方同士だから話しやすい」「悩んでいたが、そんな工夫や情報があったのか」などの声を今回もいただきました。



来年度は北海道ブロックPTA協議会研究大会 道南大会開催のため、子育て研修会はお休みになりますが、こんな面白い研修会が毎年十月頃に行われていることを覚えていてくだされば嬉しいです。

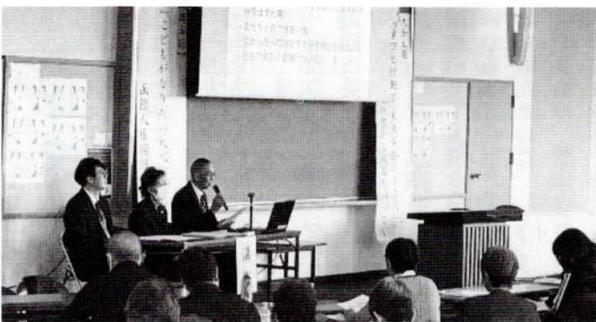
第五十九回函館市PTA連合会研究大会開催

子どもがなりたいたい大人とは

本研究大会は、隔年で講演会を中心とした大会と、分科会を中心とする大会で実施してきました。今年度は、令和七年十一月八日(土)、函館大学を会場に、「みんなと一緒に考えよう！子どもがなりたいたい大人とは」を研究主題として前半は講演会、後半は講演会の内容を受け小グループに分かれて会員相互で意見交流を行う形で開催いたしました。

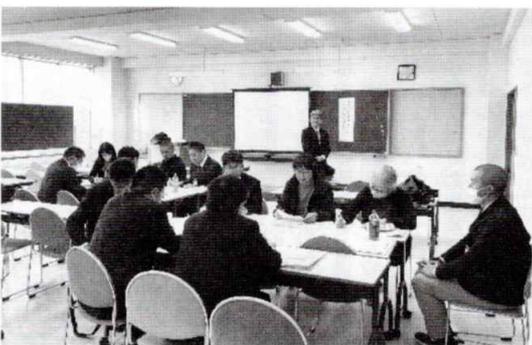
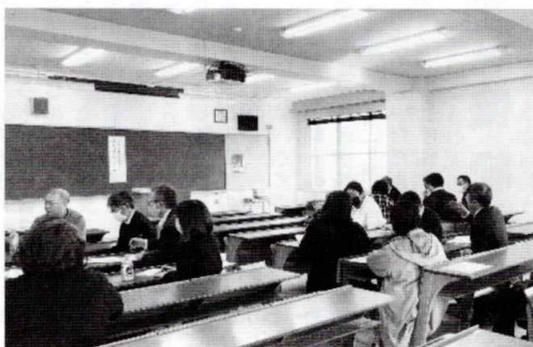
講演会では、函館人権擁護委員協議会会長川合裕紀子氏、函館人権擁護委員連合会高齢者・障がい者人権委員会会長林敏雄氏、函館地方方法務局人権擁護課人権擁護係長藤田弘太郎氏の3名の講師の皆様から、人権擁護に関する具体的な活動や相談から見えてくる今の子供たちの抱える悩み、無意識の偏見や思い込み(アンコンシャスバイアス)についてなど大変貴重で興味深い話をいただきました。

その後の小グループでの意見交流においては、講演会の感想の交流や子供がなりたいたい大人になるために大人として子供とどう関わりをもつたらよいのかなど、活発な意見交流が行われました。また、各校のPTAの実践内容の交流や抱えている課題などを共有し、互いの活動のヒントとなる充実した交流の場となりました。



参加者からは、「普段何気なく話している中でも誰かの人権を傷

つけていることがあるかもしれないということに気付かされた」「立場を越えて様々な考えや思いを交流できたので、勉強になった」などの感想が寄せられ、市P連設立五十周年の記念にふさわしい大会となりました。



令和七年度教育予算要望

調査委員会

令和七年十一月二十八日(金)十時より函館市役所において、函館市教育委員会と市P連による「令和八年度教育予算要望」懇談会が開催されました。市教育委員会からは藤井教育長ほか四名、市P連からは秋山会長ほか三名が出席されました。

今年度の調査は第二ブロックが担当し、南茅部小学校を中心に市内小中学校の要望を取りまとめました。鎌田調査委員長より藤井教育長へ要望書を提出した後、重点要望五項目の説明が行われました。

藤井教育長は、要望を重要視し、「すべてを即時に対応することは困難であるが、子どもたちのため最善を尽くす」と述べられ、施設整備や学習活動費の充実、教科書改訂時の指導書予算計上などについて説明されました。

懇談では、端末更新、特別支援教育支援員、市P連補助金も議題となり、保護者負担軽減の方向性が示されました。



限られた時間ではございましたが、率直な意見交換を行うことができ、有意義な懇談となりました。

祝！ 設立五十周年を迎え

函館市PTA連合会は、今年で設立五十周年を迎えました。設立され半世紀も長く存続できましたのは、絆の深さによる賜と大変喜ばしく思っています。

さて、四十周年記念をお祝いした後のこの十年を振り返りますと、一つ目の大きな出来事として、函館市の人口減少に伴う学校再編により組織を改めざるをえなく、会議を重ね、意見を集約しながらブロックの再編や役員組織の改編を進めたことが挙げられます。

また、二つ目としては、コロナ感染症の広がりの事業の推進等が挙げられます。この間、迷いも悩みも多々ありましたが、結果として活動の歩みを止めなかつたことが今の活動を支えていると言えます。

世界中を駆け巡ったコロナ感染症の拡大は、保護者のPTA活動に対する意識や学校のあり方などを大きく変えました。そのような中で、どのようにPTA活動を進めていくか、今こそ大きな課題を与えられた時とも言えます。

この課題を受け止め、更に六十周年に向かつて解決の歩みを行きたいと思っています。設立五十周年としての取組は、一つ、大きな事業に設立五十周年の冠をつけること。二つ、新年交礼会にあわせセレモニーを開催すること。三つ、セレモニーで披露する市P連の四十周年からの十年間を振り返る動画を作成すること。四つ、記念誌を発行することです。

今年度の総会や研究大会では冠をつけ設立五十周年を強調してきました。また、新年交礼会の祝賀につきましても、厚生委員会と連携し準備を進めました。

記念誌は、四十周年の際にも発行しているため、今回は、四十周年からの十年をまとめ、担当者が編集し、完成後、各校へ贈呈しますので、ご覧ください。

新年交礼会について

厚生委員長 佐藤 朗代

一月九日(金)、ベルクラシック函館にて、令和七年度設立五十周年記念新年交礼会・表彰式を開催しました。

函館市内五十校から百八十名の参加者に加え、函館市長 大泉 潤 様、函館市教育委員会 教育長 藤井 壽夫 様、同教育委員会 教育委員 井口 恭子 様、同学校教育部長 堤 勝幸 様をはじめ、函館市PTA連合会歴代会長や顧問の皆様、交流のある青森市PTA連合会役員の皆様のご臨席を賜りました。

交礼会は、秋山会長の挨拶の後、大泉市長、木津谷青森市P連会長からご挨拶をいただきました。宴は、教育長 藤井 壽夫 様のご発声で開宴し、表彰式・感謝状の贈呈後、北海道PTA連合会会長の団体表彰の賞状伝達を行いました。

五十周年記念事業実行委員会作成の記念映像が会場で映し出される中、市内のPTAが一同に会する場として、食事をいただきながら多くの情報交流をすることができました。

最後は、函館市P連OB会 佐々木 公明 様による乾杯で閉式となりました。皆様の御協力により、無事に会を終えることができました。この場をお借りして、御礼申し上げます。



事務局 だより

節日の年を終えるにあたり

函館市PTA連合会

事務局長 中村 和代

今年度は函館市P連設立五十周年を迎えた年でした。大きな事業に冠をつけて会員の皆さまにお知らせし、一月の新年交礼会ではお集りの皆さまと過去十年を動画で振り返り、市長・教育長・元役員、そして各校の皆さまにご協力いただき記念誌も発行することができました。

改めて考えますと、五十年という長い年月にはたくさんの方の皆さまや関係各所の皆さまが市P連に関わってくださいました。本当にありがとうございます。そんな市P連の歴史を繋いでいくため、これからも会員の皆さまの声を頂戴しながら会長をはじめ、役員の方々と共に事業を進めていきたいと思っております。

次の六十周年に向けた第一歩として、令和八年度に《北海道ブロックPTA協議会研究大会(道南大会)》が開催されます。函館市と渡島・檜山の三地区P連が主管となり、全道各地のPTA会員の皆さまの学びと交流の場となるよう準備を進めておりますので、一人でも多くの方にご参加いただけたら幸いです。

結びになりますが、各単Pの会長をはじめ役員、会員の皆さま、PTA事務局の校長先生、教頭先生には今年度も市P連事業の推進にあたって様々な御協力をいただきました。事務局一同、心より感謝申し上げます。

編集後記

今年度第二号の「PTAはこだて」をお届けいたします。市P連事務局をはじめ、各校PTA、関係者の皆様には、大変ご多用の中、原稿の執筆をいただき、ありがとうございます。皆様のご協力のもと、令和七年度の発行を滞りなく終えることができました。心より感謝申し上げます。

函館市PTA連合会のみならずの発展を祈念いたしまして、任を終えさせていただきます。本当にありがとうございます。

(広報委員会事務局)